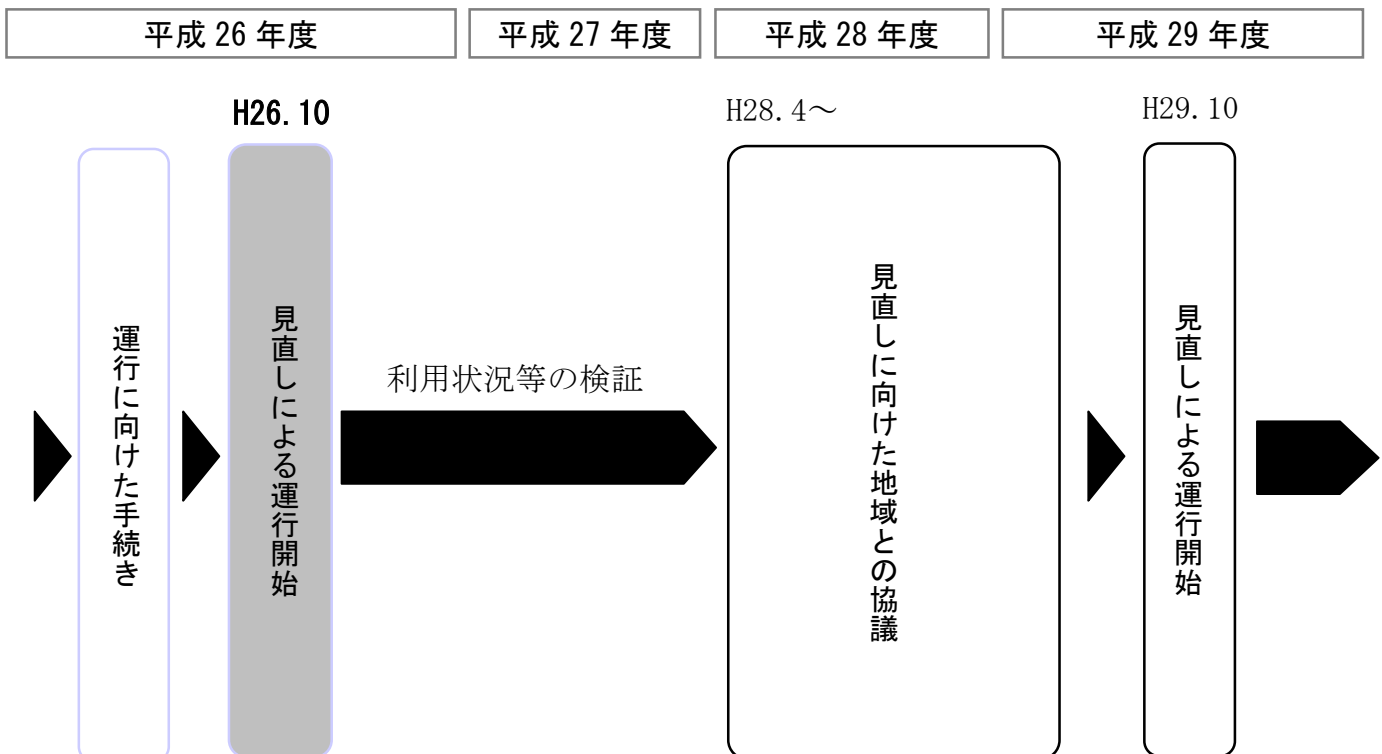
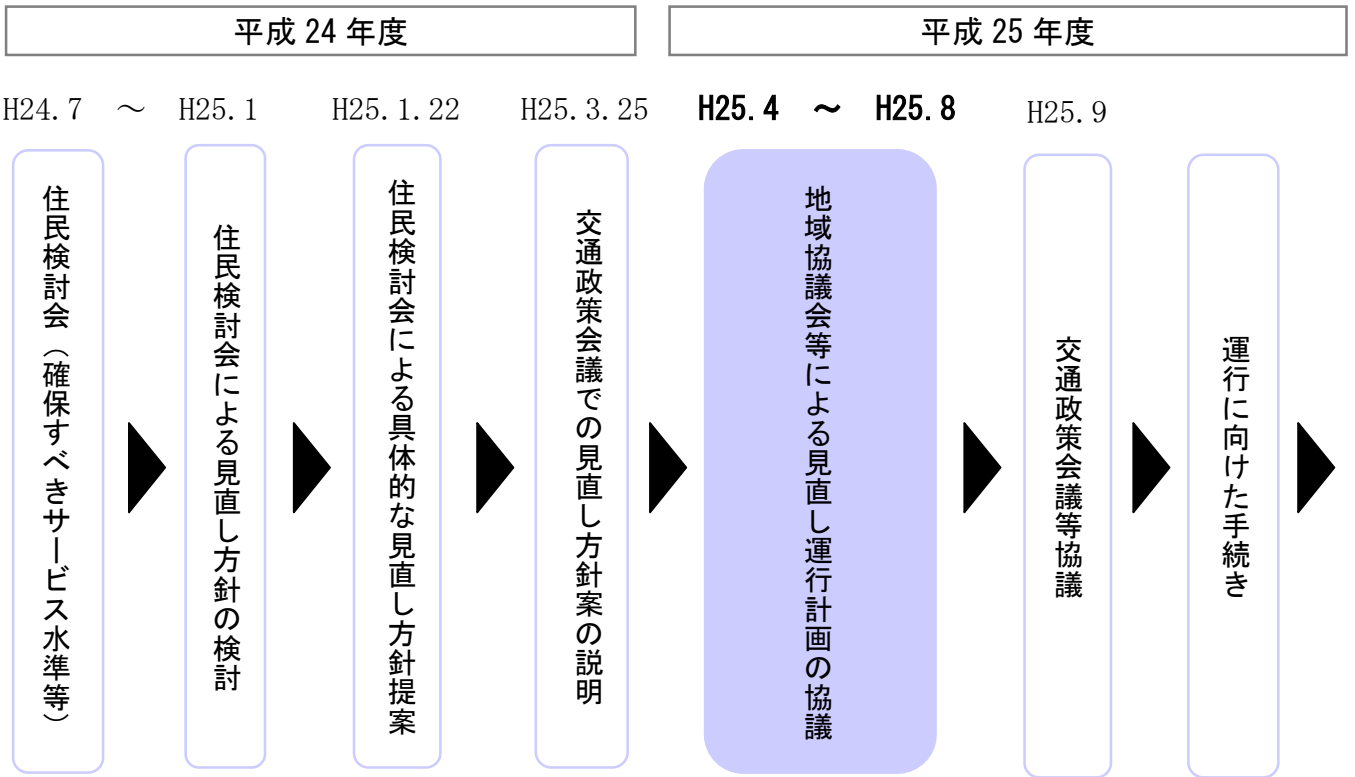


額田地域に係る運行計画の再編について

1. 再編の進め方



2. 再編の方向性

平成 24 年 7 月から額田地域生活協議会や地区でのバス委員会を通して、現在の状況（利用状況や収支等）を説明した上で、地域と行政が協議を行い、地域住民から路線再編の方向性が示された。また地域から示された方向性をもとに、市としての再編の方向性をまとめ、今後地域住民と協議調整を行う。

バス路線名 (愛称)	路線再編の方向性（地域住民からの提案等）	市の再編の方向性	地域の取組み	効果
下山地区線 (ささゆりバス)	<ul style="list-style-type: none"> 市の総合交通政策(交通基本計画)で交通結節点とされている市民病院までとし、路線長を短くする。 高校生の通学手段として使われている状況や一般の利用者数が前年に比べ増加していることから、週5日の運行は維持する。 北部診療所への利用が多く、9名(乗合タクシー定員)を超える乗車があるため、小型バス車両での運行を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 岡崎げんき館までの運行を維持する。 高校生の通学利用があり、一般利用者が増加傾向にあるため。 次回見直しまでの3年間、朝夕の岡崎げんき館までの便は平日毎日運行(週5日)を維持する。 高校生の通学利用があり、一般利用者が増加傾向にあるため。 乗合タクシー車両に変更する。 北部診療所への往復の便を増やし、昼間の街なかへの便を削減する。 北部診療所への運行積み残しを無くすため。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区住民以外の利用促進のため、バスを使ったウォーキングツアーを開催し、利用率の向上を図っている。 地域の見どころをまとめたパンフレットを作成・配布し、利用率の向上を図っている。 小学生が下校時にバスが使えるようにダイヤ変更を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の利便性を確保しつつ、収支率を改善できる。 通勤通学利用の継続により、収支率、利用率の維持改善を図られる。 積み残し等がなく、利用者の利便性が低下することがない。
形埜地区線 (乙川バス)	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の少ない曜日の運行をとりやめる。 ルートは現状のままを維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区内各ルートで週1日運行を取りやめる。 利用の少ない便、曜日があるため。 ルートの変更はしない。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者定期券の1割の金額を地区が負担して、地区全体で路線を支えている。 地区の老人会の会合をバスに合わせた開催日時にし、利用率の向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用の少ない便の削減により、利用者への影響は最小限に、収支率、利用率の向上を図られる。
宮崎地区線 (のってこバス)	<ul style="list-style-type: none"> 小学校スクールバスを兼用しているが、スクールバスとして運行している時間帯の一般の利用者はほとんどないことから、スクールバスと分離した運行を検討する。 スクールバス分離が可能なら毎日運行の必要はない。 スクールバス分離が可能なら小型バス車両の必要はない。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールバスを分離して、朝夕の便を削減する。 スクールバス利用便を教育委員会に移管し、行事等に合わせ運行するため。 週5日運行を週3日運行とする。 買物、通院目的のみとなり、平日の毎日運行の必要がないため。 大雨河ルート、千万町ルートを1両の乗合タクシーでの運行とする。 小学生が乗らなければ、車両の小型化ができるため。 小学生の運賃を有料化する。 他地区との整合性を図るため。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の意見を反映し、地区バス委員会の提案によるバス停の新設を行い、利便性が向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒入学、夏休み、学校行事等の対応が随時可能であり、児童の利便性が向上する。 地域交通として毎日運行の必要性、大型車両の確保がなくなり、収支率の改善を図られる。
豊富・夏山地区線 (ほたるバス)	<ul style="list-style-type: none"> 毎日運行している便に関しては、ほとんどがスクールバス利用となっており、スクールバスと分離した運行を検討する。 スクールバス分離が可能なら毎日運行の必要はない。 夏山ルートは週1日の運行のため現状を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールバスを分離して、朝夕の便を削減する。 スクールバス利用便を教育委員会に移管し、行事等に合わせ運行するため。 週5日運行を週2日運行とする。 買物、通院目的のみとなり、平日の毎日運行の必要がないため。 夏山ルートは変更しない。 週1日の運行であり、これ以上減らすことはできないため。 小学生の運賃を有料化する。 他地区との整合性を図るため。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進を図るため、経路内でバス停新設を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒入学、夏休み、学校行事等の対応が随時可能であり、児童の利便性が向上する。 地域交通として毎日運行の必要性がなくなり、収支率、利用率の向上を図られる。
額田支所 市民病院線	<ul style="list-style-type: none"> 市民病院～中央総合公園間を削減し、路線長を短縮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 名鉄バスの補助路線とする。(現状は委託路線) 市バスネットワークの一部として、名鉄バスの独自のサービスである IC カード、乗継割引、得々バスなどを継続していくため。 休日の市民病院から中央総合公園までの区間の運行を取りやめる。 補助路線である南市内線で1時間あたり3本程度が運行されており、イベント等ではシャトルバスが運行されているため。 		<ul style="list-style-type: none"> 名鉄バスの独自サービスが継続でき、利便性の維持が図られる。 利用の少ない区間の運行休止により、利用者に影響なく、収支率の改善を図られる。